



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

「第1回連携強化懇談会」を開催

組織の拡大と政策実現活動を

テーマに更に連携強化めざす

10月24日、第1回連携強化懇談会を本部会議室で開催。今年役員改選の年であり、JAM安河内賢弘新会長の体制になって初めての開催となった。議題は第19回定期大会及びシニアクラブ定期総会のポイント報告と両組織の新年度の活動方針とシニア組織の拡大、政策実現に向けた取り組みについて時間を超えて意見交換した。

出席者はJAM安河内 川野副書記長、栄組織 大山、木村、那珂、内会長、中井書記長、グループ長、シニアか 豊泉、大野、平木の三

役に事務局の末友さん。冒頭、安河内会長は今年の役員改選で三役の年齢が大幅に若返ったと語り「35万人の組合員がいれば多様な意見があるのは当たり前、この多様性を武器に団結してJAM運動を進めていきたい」と意気込みを述べた。

シニアの現状にふれ、「シニアクラブを立ち上げる時に議論を重ね、JAMにとってシニアクラブは必要な組織であることを確認した上で立ち上げた」ことを説明、現役役員のこれまで以上のシニア組織、会員拡大への協力を要請した。その上で、「シニアが力を発揮できる活動は政策制度。

署名や動員、選挙で豊富な経験を生かせる」と現役とシニアが強く連携できる可能性を強調した。その後、定期総会とJAM定期大会後の活動ポイントと喫緊の課題を双方から報告し理解を深めたが、この段階から協議事項へと議論が深まった。

昨年八月末で、労働運動とさよならし小規模専業農家になりました。それまでは、先祖から引き継いだ農地の一部（大部分は他の専業農家に貸与）で家庭菜園程度で春に人参、夏にスイカ、秋に里芋作りでした。専業農家になっても主力の作物は変わらず農地面積や売り上げも増え、土日も関係なく、雨天は休み、自分の都合で休日設定しましたが、忙しいのにびっくりしました。貧乏暇なしで利益はいまいちです。なぜなら、良い品質の物が取れないのです。野菜や果実の品質ランクは3段階あります。一番良い物が「秀」そ

の次が「優」そして「良」となります。スーパーに出回っているのはどのランク、買うときにもわかりませんか？ スイカを例に取って説明します。



主張

ないもの「形が非常に悪い、縞模様も悪い。かすり傷が多い。虫の傷が多い。私、専業農家を始めたばかりで、「秀」品が少なく、「優」「良」が多くなり売り上げが伸びません。こんなに品質すなわち見た目によって価格差が出るのです。スイカの場合、味は畑が

静岡シニア事務局長 二村政司

専業農家になって スイカづくりで思う

静岡シニア事務局長 二村政司

利益が上がりますが、なかなかうまくいきません。消費者も見た目の「秀」だけでなく「優」「良」も購入してくれます。そして市場に出せない物でも売れます。今年の7月上旬の売価の例、秀2L・二千円（1箱4玉入れ）、優2L・千六百円、良2L・千二百円でした。ちなみに、1個五百円のスイカ、スーパーでは千四百円位で売っていました。なぜ、こんなに違うのでしょうか？ それは…

となった。

岐阜

第17回定期総会を開催 現・退連携で組織拡大を点検

傍島 征夫通信員



10月14日(日)、第17回定期総会をワークプラザ岐阜において、来賓と会員含め45人が出席して開催した。

主催者を代表して北村務会長は「JAMシニアクラブ創立当初の基本理念である高齢者の自立・相互扶助・社会貢献・政策制度の取り組みを通じた社会保障制度の見直し、自由と民主的な活動を目標にJAM岐阜シニアクラブ(385人)はJAM東海や退職者連合と連携した活動を継続していく」と挨拶した。来賓を代表してJAM

Mシニアクラブ大山勝也会長は「衆議院解散総選挙が間近に迫る中、今回の選挙は安倍政治に終止符を打つ国政選挙で政治の流れを変えようではありませんか、それには、現役とシニアクラブが連携した協力をお願いしたい」と強く述べられた。報告事項は2017年度事業と決算・会計監査報告が承認された。議案では、①政策・制度要求は雇用と生活を守るためにJAMとして何をするかを議論し行動することが大切。それには現役とシニア

が連携し議論を行う。②組織拡大では昨年度大幅な減員となったことから、組織を改めて再点検し弱点の洗い出しと会員の意見を掘り起こす。③教宣活動は「すこやか」の一層の充実を図り発信に努力する。④ポウリング・ウォーキング・研修会・グラウンドゴルフなど一人でも多く参加できる交流会を企画する等の運動方針(案)を審議し原案通り承認された。総会后、会場を移動して懇親会を開催した。会場のあちこちで日頃の生活や趣味、各単組

OB会の活動状況など一酒を酌み交わしながら親交を深めた。

九州山口

第15回定期総会を開催

田中ひさや予定候補の推薦を決定

工場見学で焼酎とビールを堪能

森峰 茂樹通信員

九州・山口シニアクラブは、10月15・16日、大分県日田市の「かんばんの宿」で第15回定期総会を開き、会員29人が参加した。

初日に予定した「グランドゴルフ大会」は降雨により中止、代って「いいちこ」で知られる三和酒造とサッポロビールの日田工場を



工場見学で焼酎とビールを堪能

見学し、両工場を試飲したのはしこ酒を楽しんだ。とりわけ、サッポロビール日田工場でエビスビールの歴史を見学、

1887年の創業時から今日までの経過や銀座に初出店したビアホールの内外的様子が実物大で再現されており、案内嬢の軽妙な口上も加わり興味をそえられる見学会だった。見学の締めくくりは

兵庫

結成15周年を全員で祝福 会員拡大の方針などを確認

徳永 良信通信員

JAM兵庫シニアクラブ(中下恵司会長・会員222人)の第15回定期総会が10月20日、午前10時から全労済兵庫県本部5階大ホールで開かれ、会員60人、

来賓22人が出席。結成15周年記念を祝うと共に2018年度の活動計画(案)や2018・

2019年度の役員体制(中下恵司会長ほか全員留任)、「労働基準法の改悪に反対する」署名活動などすべての議案を満場一致で決めた。

2018年度の主な活動計画(案)は、①会員の拡大↓現役役員の協力を得て、退職者へ

の加入の働きかけで会員拡大に努める。②85歳まで安心、安全、有利に保障されるJAMシニア共済への加入促進に努める。③上部団体へ役員を派遣する。④会員からの年金、共済、法律、医療などの相談に応じ世話役活動を行う。⑤幹事会とJAM山陽兵庫連絡会との新年懇談会。シニアクラブと共催でゴルフコンペへの参加で交流を深める。⑥兵庫退

連及び連合兵庫主催の「川柳」祭典に積極的に参加。⑦安心、信頼の社会保障を目指し、連合やJAMが取り組む政策制度改善への取り組み、要請された各種署名活動にも積極的に参加、行動する。⑧連合兵庫、JAM山陽兵庫連絡会の選挙活動を積極的に支援する。⑨JAM参議院比例区組織内候補予定者「田中ひさや」の周知活動に組織を上げて取り組

んでいくとしている。総会后、同会場で結成15周年を祝って、全員で乾杯。少しばかりの祝賀会を開いた。その後、別会場で来賓招待のJAMシニアクラブ大山勝也会長と橋村良夫顧問を囲んで40人が集まり、高齢者組織の今後の活動をどう進めていくか? など自己紹介を交えてザックバランに意見交換交流を締めくくった。

エビスビールの試飲、小ジョッキ3杯までの制限つきながら2種類の出来立てビールを堪能し、満足の工場見学を終えた。

翌日の定期総会は、松井会長の主催者代表あいさつ、来賓のJAM九州・山口の横田執行委員長、JAMシニアクラブ豊泉副会長からあいさつを受けた。豊泉副会長は政策制度の省庁要請では組織内国会議員の有無により対応に大きな差がある実情にふれ、JAM組織内候補予定者「田中ひさや」への結集を呼びかけ、シニアの重点課題である介護問題について力説された。活動方針承認の後、田中ひさや予定候補の推薦決定を満場一致で決め、役員の空白県であった佐賀県から前川新幹事を選出し総会を終えた。